○ 議事日程（第2号）

1 一般質問

○ 本日の会議に付した事件……議事日程に同じ

○ 出席議員次のとおり（13名）

2番	畔上恵子君	9番	渡辺正男君
3番	小林仁君	10番	湯本晴彦君
4番	志鷹慎吾君	11番	山本光俊君
5番	塚田一男君	12番	小林克彦君
6番	湯本るり子君	13番	小田孝志君
7番	徳竹栄子君	14番	白鳥金次君
8番	高田佳久君		

○ 欠席議員次のとおり（なし）

○ 職務のため議場に出席した議会事務局職員の職氏名次のとおり

議会事務局長 鈴木明美 議事係長 宮崎敏之

○ 説明のため議場に出席した者の職氏名次のとおり

町長	平澤岳君	教育長	竹内延彦君
副町長	久保田敦君	こども未来課長	望月弘樹君
総務課長	古幡哲也君	生涯学習課長	山本佳史君
未来創造課長	堀米貴秀君	経済振興課長	田村清志君
農林振興課長	金井哲也君	危機管理課長	田中浩幸君
建設水道課長	高木和彦君	住民税務課長	湯本豊君
消防課長	高相一夫君	健康福祉課長	小林佳代子君
会計管理者	小林知之君		

(開 議)

(午前10時00分)

議長(白鳥金次君) おはようございます。議員各位には、公私多忙のところご出席いただき、厚く御礼申し上げます。

ただいまの出席議員数は13名です。したがって、会議の定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

1 一般質問

議長(白鳥金次君) 本日は、日程に従い一般質問を行います。

質問時間は、1人25分であります。質問者は25分以内に質問を終了するようお願いいたします。質問時間終了の予告は、終了2分前と終了時に行います。また、質問は登壇して行っていただき、再質問は質問席で行ってください。

次に、理事者、管理職の皆様にお願いたします。質問に対する答弁は、要旨を十分把握され、簡潔明瞭にお願いたします。

また、反問権の行使は、再質問時に認めます。議員の質問に対し反問される場合は、必ず発言前に「反問します」と声をかけた上で反問してください。

本日の一般質問は3名です。質問通告書の順序に従い質問を許します。

11番 山本光俊議員の質問を認めます。

11番 山本光俊議員、登壇。

(11番 山本光俊君登壇)

11番(山本光俊君) おはようございます。

本日、6月定例会初日の最初の一般質問ということで緊張をしておりますが、よろしくお願いをいたします。

本日の一般質問は、昨年、私の12月の定例会で行った一般質問を、3月の定例会で当会派の小林克彦議員が受けて引き継いでいただき、そしてそれを私がまた受けて、質問を基本的に構築をさせていただきました。

早速でございますが、通告に従い質問をさせていただきたいと思っております。

1、スノーリゾート形成促進事業について。

(1) 事業申請の内容は。

①志賀高原の事業内容は。

②平地温泉郷の事業内容は。

③北志賀高原の事業内容は。

(2) 計画策定費用の内訳は。

2、地域活性化起業人について。

(1) 今年度新規契約締結した経緯と事業内容は。

- ①誰が選定したか。
- ②いつどこで機関決定したか。
- ③事業内容はどうか。
- ④昨年度までの反省をどう生かしていくか。

3、昨年度のタイへの町長トップセールスの実態調査について。

- (1) 調査を検討すると答弁した副町長の結論は。

4、町長トップセールスについて。

- (1) 今年度の実施予定と事業内容は。
- (2) 予算の内訳は。
- (3) 町長不在中の町行政等の影響は。

5、ハラスメント、コンプライアンスについて。

- (1) 各種ハラスメント啓発は行っているか。
- (2) コンプライアンスに対する取組はどうか。

以上、再質問は質問席で行わせていただきます。

議長（白鳥金次君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） おはようございます。

ただいまの山本光俊議員のご質問にお答えします。

大きな質問1のスキーリゾート形成促進事業について、大きく2点のご質問ですが、まず1、事業申請の内容については、地域の関係者が一体となって策定する国際競争力の高いスキーリゾート形成計画につきまして、令和6年度から町内観光地それぞれの現状と課題の分析、取組計画の作成業務を、山ノ内まちづくり観光局が計画策定を行っており、過日、令和7年度国際競争力の高いスキーリゾート形成促進事業支援対象地域に、山ノ内町として選定されました。

全体計画は整備されましたので、今後は地域のそれぞれの事業者が主体となり、スキー場のインフラ整備や2次交通の確保に関する具体的な事業計画に、国の補助事業を活用していくものになります。

ご質問①の志賀高原の事業内容については、スキー場内レストハウスの撤去や、トイレ改修、高機能降雪機の整備などが出されております。

②、③の平地温泉郷と北志賀高原の事業内容については、北志賀高原では降雪機の整備を検討していたようですが、今年度の取組事業申請はございませんでした。

次に、(2)計画策定費用の内訳ですが、町が負担金として一般財団法人山ノ内まちづくり観光局へ支出し、観光局が国際競争力の高いスキーリゾート形成促進事業に係る基礎資料作成業務として330万円で専門業者に委託契約をしております。

大きな質問2の地域活性化起業者について、(1)今年度新規契約締結した経緯と事業内容

はについて4つのご質問ですが、まず①誰が選定したか、②いつどこで機関決定したか、③業務内容はどうかについてですが、新しい地域活性化起業人として、5月1日付で株式会社日本旅行から1名派遣していただき、一般財団法人山ノ内まちづくり観光局に勤務しております。観光局において専門的知見から着地型旅行商品の開発やDMO登録、観光振興全般にわたる業務に従事、サポートいただくため、地域活性化起業人の派遣実績がある株式会社日本旅行を私と担当課の協議により選定し、一般財団法人山ノ内まちづくり観光局理事会評議員会において観光局の職員体制について報告決定をしております。

次に、④昨年度までの反省をどう生かしていくかについてですが、派遣元企業とも調整し、双方合意の上、山ノ内まちづくり観光局のサポート業務に専念いただけるお立場をつくっていただくことができましたので、一番の懸念事項であります勤務日数要件の面でも問題ないと判断しております。

大きな質問3については、後ほど副町長からお答えいたします。

大きな質問4の町長トップセールスについて3つのご質問ですが、私がトップセールスを行うことにより、実際のお客様や同行する町内事業者、長野県などの関係団体の皆さんと直接意見交換などが行えることや、実際の現地の空気感、熱意、海外では物価などを肌で感じることで、より深い理解を得ることができると思っております。ことわざでも「百聞は一見にしかず」とも言われております。私は、その経験を山ノ内町の観光関連の受入れ態勢整備などに生かしてまいりたいと思っております。

では、まず(1)の今年度の実施予定と事業内容はのご質問についてお答えします。

今年度私が行うトップセールスは、オーストラリアのシドニーで開催されたスノートラベルエキスポ関連と、県と合同で予定している北米のセールスプロモーションです。オーストラリアにつきましては、既に5月21日から25日の日程で、そのトラベルエキスポシドニー及び商談会へ、長野の荻原市長、松本の臥雲市長と共に参加してまいりました。

今回、山ノ内町のプロモーションに追加し、信越エリア全体の魅力を発信する広域プロモーションの取組もスタートいたしました。実際来日される外国人観光客の多くは、山ノ内町だけではなく、白馬や野沢温泉、長野市、松本市などエリア一帯を周遊する傾向があります。だからこそ、地域で連携して魅力を伝えることがとても大切であると、私から長野市長に呼びかけ、このたび3市長の合同での参加となりました。

(2)の予算の内訳はにつきましては、経済振興課から山ノ内まちづくり観光局への負担金として、観光局の海外プロモーションにおける旅費、出展料などで300万円計上しております。これにはトップセールスのみならず、オーストラリアスノートラベルエキスポと県との北米プロモーション、タイのFITフェアへの山ノ内町としての出店費用や職員の旅費などが含まれております。町の予算査定で減額査定したことから、不足分に関しましては観光局内部でやりくりをしてもらうことになっております。

また、農産物のトップセールスにつきまして、自治体の首長がアピールすることで農産物等

のすばらしさを直接伝え、販路拡大等に効果的であると感じております。本年度は、町の果物をはじめとする農産物のおいしさをPRするため、JAながの志賀高原ブロックと共に、関西や中京圏の市場におけるセールス等を予定しており、予算の内訳は、町長と随行職員の旅費等を20万円計上しております。

次に、(3)町長不在中の町行政等の影響はとのご質問ですが、まず海外出張などの長期不在とする公務が発生した際には、その時点で私から管理職会議や理事者スケジュール管理の中で、全職員に対し早期に情報共有を行っております。これにより、事務処理の面においては、私の不在期間を見越した計画的な対応を職員には取っていただいております。必要により町事務処理規則の規定に基づき、代理処理で対応をしているところです。

また、各種会議や事業の実施にあっても、不在期間を踏まえた日程調整をあらかじめ行っており、出席案内をいただく諸行事等には理事者、管理職で必要な対応を取っております。海外出張の際でも、インターネット等を利用した通信手段により、いつでもどこでも必要な連絡が取れる体制を確保しておりますので、万が一、災害等の不測の事態が発生した場合にも、必要な情報共有や指示等が発出できるようになっております。長期、短期にかかわらず、このように私が不在時の対応については常日頃から意識しており、トップセールス等による町政への影響が生じないように努めております。

大きな質問5のハラスメント・コンプライアンスについて2点のご質問ですが、1点目の各種ハラスメント啓発は行っているかにつきまして、職員がその能率を十分に発揮できる勤務環境を確保するためには、各種ハラスメントが発生しづらい職場づくりに取り組んでいくことが大変重要なことであり、その防止と配慮の取組、また問題が発生した場合の迅速かつ適切な対処に努めることは、不断に求められているものと考えております。

町では、令和3年に山ノ内町職員のハラスメント防止等に関する規程を制定し、ハラスメント防止等に関わる理事者及び管理職の責務を明らかにした上で、全ての職員で対策に取り組んでおります。ハラスメント防止等のためには、まず職員の意識啓発や知識向上が重要であり、このことから、必要な職員研修を町独自に開催したり、管理職や係長等を階層別に行われる外部研修に受講させたりしております。

また、職員からハラスメントに関する苦情、相談があった場合に対しては、規則に基づく適切な対処を取るための体制を整えております。ハラスメント防止等の取組には終わりが無いものと考えておりますので、引き続き職員が働きやすい職場づくりに努めてまいります。

2点目のコンプライアンスに対する取組はどうかとのご質問ですが、職員に高い使命感や倫理観を持って業務に当たっていただくためには、ハラスメントと同様、必要な研修を定期的に受講させることが重要と考えており、昨年度は課長補佐級の職員全員を対象に実施するなど、職員の意識高揚に努めております。

また、不正行為のない安心して働ける職場づくりのためには、誰もが意見しやすい職場環境を確保することが大切と考えおり、このことから、町では公益通報者保護法に基づき、令和6

年に山ノ内町公益通報の処理に関する要綱を制定し、内部の職員や外部からの通報、いわゆる公益通報に対応するための規定を整備いたしました。その窓口を設置するとともに、通報者の秘密を守りながら、事実関係の把握、通報受理、調査、調査結果に基づく必要な処置が進められるよう体制を整えました。

万が一、通報があった際には、まず通報窓口においてじっくり丁寧な聞き取りを行い、通報者の意向を踏まえた上で、十分寄り添った対応を取っていくことが大切と考えております。引き続き、危機管理意識を持った職員がためらうことなく通報できる環境を整えていくことで、町及び職員のコンプライアンス遵守の徹底を図っていきます。

以上となります。

議長（白鳥金次君） 久保田副町長。

副町長（久保田敦君） おはようございます。

私にいただきました山本光俊議員のご質問にお答えをさせていただきます。

ご質問の件に関しましては、さきの令和7年の3月議会定例会におきまして、小林克彦議員からも同様の内容のご質問がありまして、この議場という崇高な場で答弁をさせていただきました。

また、さきの令和7年3月議会の最終日におきまして、この議場で、これは全協の場ではあったわけですが、前の湯本前議長名で私宛てにいただきました申入書に対しましても、議場におきます私からの小林克彦議員への答弁を踏まえまして、書面で回答をさせていただきましたが、議員から再度、同様のご質問をいただきましたので、重ねてにはなりますが、答弁をさせていただきたいと思っております。

検討の結果といたしまして、町長が政治家として自らの行動に対して向けられた疑念につきましては、自らの言葉で町民の代表である議員の皆様方に説明することが重要であると。そうすることが町民から選ばれた町長としての責務であるという考えに至りましたことから、さきの令和6年12月議会定例会で、山本光俊議員からご質問がありましたその日のうちに、町長から聞き取りを行わせていただき、自身の行動に対する周りの方々の受け止め方は様々であることや、今回の問題の根源は、今回というのはタイのことですけれども、町長自身が疑念を抱かせるような行動を取ったそのこと自体にあること、そして、町の代表者として疑念を抱かせるような行動は厳に慎んでいただきたいという旨を進言をさせていただきました。

町長も、私の思いを真摯に受け止めていただき、さきの令和6年12月議会定例会閉会日の挨拶の中で、この議場という場で、町長自ら、町民の代表である議員の皆様方に対しましてご説明をされるとともに、自身の行動に対して疑念や町民の皆様方に疑念や不安を抱かせてしまったことについて、真摯に反省の弁を述べられたと、私は認識をしております。

私は、町長が議場というこういった非常に崇高な場で、町民の代表である議員の皆様方に対し述べた内容は、そのとおりであると認識をしております。ただ、そのとおりだとしても、町民の皆様方に疑念を生じさせてしまったそのこと自体が問題であると、それが問題の根源であると

考えております。

また、町の施策について、議員の皆さんと、本当に前向きで、特に建設的な議会、特に3月議会は今年度の当初予算を議論する場でございます。そういった場において、貴重な審議時間の中でこのような議論を交わすことになってしまったこと自体について、町民の皆様をはじめ、議員の皆様方にも大変申し訳なく感じているところでございます。

私から申し上げるまでもございません。町長は、議員の皆様と同様に、選挙を通じて直接町民から選ばれた身でございます。町民からこの町のかじ取りを任されておりますし、町を代表する立場でございますので、町長の行動は町民全体の行動と、そういうふうに捉えられる場合も多々あると考えております。

繰り返しになりますけれども、私は、今回の件につきましては、町長の行動が原因で、町長の周りにいた方々、ひいてはその方の受け止め方を伝え聞いた町民の皆様方に、大きな疑念を抱かせてしまったそのこと自体が問題だと考えております。

今後も町長に対しましては、機会を捉えて、町民に疑念を抱かせるような行動は決して取らないでいただきたいということを進言させていただくとともに、私自身につきましても、改めて町民の皆様方に疑念を抱かせるような言動は取らないように、肝に銘じてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

議長（白鳥金次君） 再質問を認めます。

山本議員。

11番（山本光俊君） それでは再質問をさせていただきます。

まず、スノーリゾート形成促進事業についてですが、これ、町全体を対象に事業参画する話は、令和6年度に観光局を立ち上げる前から出ていて、そのとき、既に観光局が申請するなど、各所に説明をされておりました。

しかし、結局令和6年度は志賀高原地区しか事業計画が提出されず、当時の観光庁の指導により、これまで同様、志賀高原観光協会を申請主体として進め、採択された経緯があります。

そして、令和7年度申請においては、1年近く時間があつたにもかかわらず、志賀高原以外の各地区の調整や書類の整備、計画が立てられなかった。よくこの状態でさきの補正予算を計上できたものです。北志賀エリアの4つのスキー場は全て同意の上、事業参画の意思、事業の計画があるからこそ、町全体の事業として観光局が取り扱う趣旨であった。だから、補正予算の要求があつたということではないのでしょうか、いかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） この国際的スノーリゾート形成促進事業につきましては、エリアで公募、応募しなければいけないと。申請を出すということになっておりまして、そのため、我々は北志賀高原のスキー場も参画できるように、町として申請をするという決定をいたしました。

結果として、民間事業者ですから、今年度、降雪期を見送るなどの経営判断の下、申請をし

なかったということにはなりましたが、それはイコール我々が町として計画を策定しなくていいという話ではなく、いつでも計画が出せるように、町として計画を、いつでも申請が、各事業者が申請出せるように、町としてまとめて申請をすることに意義があると思っておりますので、引き続き、町としては志賀高原のみならず、北志賀高原にもスキー場はございますので、そこがしっかりと申請を出せるようなプラットフォームをつくっていくというのが責務だと感じています。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） そのプラットフォームの話は、もう6年度の時点でできていなければいけなかったはず、そしてそれができているからこそ、北志賀高原のスキー場からの事業計画があるという前提で、今回の補正予算が組まれたと認識しておりますが、そこはまたどういう状態なのかは改めてお伺いをしたいと思います。平地温泉郷のほうの話です。なぜ平地温泉郷の事業主体、策定者が観光局だったのか。また、温泉郷の各地域団体と事業を調整し、計画策定に参画できていたか、そこら辺をお伺いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） お答えします。

このスノーリゾート形成促進事業につきまして、町として計画を策定する際に、湯田中、渋温泉郷などを含めた湯田中エリア、いわゆる下の町ですね。温泉郷に限らず町のエリアもベースタウンという位置づけで計画策定をして、絵を描いております。

それによって、我々の町が一つの大きなスノーリゾートという位置づけにすることで、将来的に湯田中、渋温泉旅館組合などがもし何か申請した場合には、その計画に基づいた内容であれば申請を出せるようになるということで、そういう絵を描いてきましたので、今回は湯田中、渋温泉とかには、まず観光局から声をかけたかどうかは、大変申し訳ありませんが、私は存じておりません。まずは町としてしっかりと計画策定に下も入れ込むことで申請を出すということで計画をさせていただきました。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 12月の補正予算のとき、もう計画が上がってくるからこの金額をとということでお話があったということだったと思うんですが、今の話だと、合意形成や整合性が取れていないということで、取れていないのにこの事業を進めたということだと理解をいたしました。

現町政では、よくこの事業の性質、理解せず、見切り発車で事業をしているなという感想をよく持つんですけども、例えば、昨年度の上林インフォメーションセンターや地域活性化起業人、それなどがいい例です。

12月定例会でも申し上げました。町長はよく「スピード感を持って」という発言をされてい

ますが、しっかりと調査をし、準備をするとき、準備をする時間をできるだけ迅速に行うことが行政のスピード感なんだと私は思っています。もう間違ったスピード感という言葉を使罪符にして、雑に事業を進めるのはやめていただきたい。行財政運営の進め方としては、非常に不適切だと言わざるを得ないと思っています。

そして、策定費用ですけれども、これ令和7年度に係るものです。常識的に、事業計画の策定から申請、採択、それから事業完了報告までの一連の業務まで入れて算定されるのがこれまでの流れです。なおかつ、それらが全て整って業務が完了してから精算するのが、これまでの取扱いの方法でした。

なぜか今回は、7年度分を6年度中に精算しているということですが、これだと現時点では、計画策定、申請までの精算費用に見えます。今後の作業完了までの経費精算はどうするおつもりでしょう。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 山本議員がどういう認識でいらっしゃるのかよく分からないんですが、この国際的スノーリゾート形成促進事業の、まず募集が令和6年度中に行われたりしていることから、計画策定は6年度中に行わなければいけないということで、費用計上させていただきました。それがなければまず進まないということです。

そして、採択通知がちょうど1、2週間前に来ましたので、令和7年に入ってから事業ということで、事業主体はまず各事業者になりますので、町が行うわけではございません。ですので、山本議員に関しましても、その事業の内容をよくご理解した上でご質問いただければと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 私の経験上の話で、今年度がどうかということの確認しろというようなお話でしたが、これまでの例に倣ってお話をさせていただくと、令和6年度は計画から事業の完了報告まで、これが志賀高原地区だけで110万円でした。

今回の330万円という費用は、2地区が追加になったことを受けて、同じように110万円ずつを加算して330万円だというように私は認識しているんですが、そうじゃないんですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 山本光俊議員も事業やっちらるとよく分かると思うんですが、そんなシンプルな話ではなく今回、町全体の計画をつくるということで作業が膨大になったことから、100万円、志賀高原はもともとやって100万円というのは、志賀高原観光協会さんとその事業者さんとの関係性があってその金額でやっていたと聞いております。町として町全体つくる際には330万円かかるということで、志賀高原の今までの流れをくみながら、しっかりと補助金を取れる体制をつくるために同じ業者さんに発注しましたが、その中で3か所が入ったから300万円になったとかいう話ではなく、町全体の、広域でしっかりと計画をつくるという

ことにより、作業量が増えたから金額が上がったという認識しておりますので、大変申し訳ありませんが、その3か所だから300万円になったという話ではないと、私は業者から説明を受けております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 分かりました。

じゃ、事業完了時には特に追加の費用は発生しないということによろしいですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） はい。そのような認識です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 分かりました。

それでは、次の質問にいきます。

では、地域活性化起業人についてお伺いをさせていただきます。まず、この日本旅行の方を選んだ経緯の詳細、これをお聞かせください。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 観光局を、今までのDMOになれなかった観光連盟の二の舞にならないように、しっかりと観光策定、観光戦略を町として行うために専門家を入れたいと思って、JTBと日本旅行の2社に、起業人を出していただけないかという打診をしました。JTBからはちょっと難しいという話をいただきましたが、日本旅行からは出せますということでお話をいただきましたので、日本旅行にお願いをするということに至った次第です。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） それでは業務内容です。着地型旅行商品の開発というお話でしたが、どうやって開発を進め、開発後はどう販売していくつもりで契約したのか、町長にお伺いをしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 先ほど、着地型旅行商品の開発などと言いましたが、それだけが目的ではなくて、そういうことも行うというふうに思っております。

ただいま、これ、今まだ動き出したばかりですので、どのように、どうやって販売するということはまだ詳細は決まっておりません。観光局として、しっかりと稼げる観光局をつくるために、日本旅行にいらっしゃった方の知見をいただきながら、しっかりと観光局としてDMOへの登録申請も含めて、今後サポートいただくという形で行っていますので、決して旅行商品をつくるためだけに来ているわけではございません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） まずはそのところをちょっと確認したかったんです。まだ決まっていな
いということですので、いいですけども。

総務省の地域活性化起業人制度推進要綱に、企業派遣型地域活性化起業人の派遣元企業や、
副業型地域活性化起業人が勤務する企業等の請負契約を結ぶ蓋然性の高い業務に、地域活性化
起業人を従事させないなど、公平な職務執行を確保するために必要な配慮を行うことという項
目があります。

町長は、この項目に対する配慮、どんなふうにされていますか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） この項目のことも存じております。基本的にこの今回の起業人の方は、山
ノ内町の観光戦略の策定ですとか観光局の運営を全般的に、今までの経験や知見を生かしなが
ら、知識を生かしながらサポートいただくという当初の、もともとの企業人の利用目的に沿っ
た内容で活用していただくということが前提にありますので、ここのところは全く私は心配し
ておりません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） じゃ、ちょっと趣旨を変えて。

昨年の12月定例会で質問した令和5年度、6年度の起業人、こちらの方たち、ちょっと特別
交付税措置がされるということで雇用されたんですけども、そこがクリアできなかったとい
うことなんですが、昨年までの起業人の方だって、常識的に考えて何か月にもわたって特別交
付税を受けられる規定をクリアできない状態を放置していたのは、やはりおかしいと思います。

結果、全額特別交付措置をされることを前提とした事業で、実に2,753万円もの金額を取り
こぼし、自主財源を充てなければならなくなりました。これちょっとおかしいなと私思っているん
です。町長は、あなたは2022年に北海道美唄市で地域活性化起業人として実際に活動されてお
りましたね。

この起業人制度や協定には精通しているはずなんですけど、なぜこんなことになったのか、町
長として、あるいは観光局理事長としての管理責任、どう考えているかお聞かせいただきたい
と思います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 過去の起業人で、総務省の規定を満たさなかったということに関しまして
は、私のミスだと思っております。実際に東京の会社の方で、当初契約した際には、月の半分
こちらに来るという前提で契約はしたんですが、なかなか業務が進むにつれて、業務自体はや
っていただいているものの、厳密に月半分しっかりとこっちに体がいるということができ
ずにいたために、業務はやるけれども、その体をこちらに置いておくということができな
かったという結果となりました。そこは私の管理不行き届きということもありますし、甘かった
というところは確かにございますが、令和6年度の途中で起業人として総務省に申請できない

方たちに関しては、途中で契約を解除させていただきまして、それ以上の一般財源の支出は抑えているということ、処置を取らせていただいております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 先ほどの推進要綱、これに沿った形あるいは協定書に沿った形でしっかりと活動していただくよう、今後の管理体制強化をお願いしたいと思います。

次の質問にいきます。

議会から申入れをさせていただいた、その回答が副町長からありましたが、これは到底納得できるものではありません。崇高な場で自ら説明をされるとともに、自身の行動に対して疑念や誤解を招いてしまったことについて、真摯に反省の弁を述べられたと認識していますとの記載がありました。

私は、副町長には疑念を晴らし、誤解だったかどうかを証明してくださいと申入れをしたつもりなんです。弁解や反省の弁などはその後の話であって、まずは事実を確認する。調査をする。それありきだと思うんですが、違いますか。

議長（白鳥金次君） 久保田副町長。

副町長（久保田敦君） お答えいたします。

先ほどお答えいたしました。この議場における答弁というのはまさにそのとおりでございまして、私も30年間公務員やっておりますけれども、県議会でもそうです。議場における答弁というのは当然のことながら、ご自身の言葉で政治家としての説明責任を果たす場でございまして、そこで尽くされた説明というのは、まさに事実そのとおりと私は認識しておりますので、そのような答弁、回答をさせていただいたところでございます。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 誰しも勘違いや記憶違いはあるし、自分の行動に気づかないことだってあります。町長自身の答弁だから、ご自身の主観が多分に入っているとも思われます。

必要なのは客観性と公然とした事実です。だから、確認と調査が必要だし、第三者の意見が必要となりますが、この場合は簡単だと思うんですね。この議場にも関係者がいます。当時議長だった湯本晴彦議員の身内の方、それから徳竹栄子議員に至っては、ご本人がこのタイでのセールスコースに参加されている。そのほかにも同行した職員や事業者が大勢参加している。

別に北海道や沖縄にいるわけではありませんし、ましてや外国にいるわけじゃないんですから、すぐに聞けるじゃないですか。特に湯本議員と徳竹議員は公職に就かれているわけですから、虚偽の報告をするわけがないですし、万が一、虚偽の報告をしても、それが明るみに出たとしたら大変なことになるんだから、正確な情報が聞けると思うんですよ。

それから、3月定例会での小林克彦議員の一般質問に対する町長の答弁ですね。「私の会社の業種は、イベントの企画、運営、イベント用機材の輸入卸、スキーリゾートなどの経営コンサルティングをなりわいとしている会社となります。タイ、バンコクでの会議は2022年から準

備に入っている音楽とエクストリームスポーツのイベント、X p a r kプロジェクト関連の会議です。当時、私はこのプロジェクトのチェアマンを努めており、会社としては今でも関わっています。」と答弁されています。

さらに、「今回は、私がタイに行くということで向こうから会議の打診があったんですが、日中の会議は出られませんということで、夜の会食はスーパーボールのスタッフと社長さんとさせていただきます。」ともおっしゃられています。

これ、驚きですよ。これ違法性が高くないですか。これね、公務で行きながら、しっかり自分の会社の仕事をしているんじゃないですか。プライベートだとか食事しただけなんて普通、通用しませんよね。何で町長がタイに行くことを事前に知っていたのか、会議のセッティングも含めあらかじめ手配し、セッティングされていたということでしょう。

12月定例会で、グーグルマップでの機能でタイムラインという機能があって、自身の行動が記録されている、そういう発言がありました。だったら、記録も提出してもらったらいかがですか。そして、この会食にビジネスパートナーが同席していたか。また、町長が経営されている会社の社員数、ビジネスパートナーのお名前を把握していただきたいと思います。今後の町の各事業において、同様の疑義、それから誤解のないようにきちっと確認することが必要です。

もう一つ、これも3月定例会の小林克彦議員の一般質問に対する答弁で、「今回、帰りの、市内から空港へ乗合バスみたいなもので移動したんです。その際に同じ乗合バスを使ったため、そこに居合わせた徳竹栄子議員と町の観光事業者のお1人の方と、観光局の職員に対してそういう紹介をさせていただきました。これは旅行会社に手配してもらって、同じ乗合バスでいいですかという話だったので、いいですよということで、同じバスで、帰りだけ同じ乗合バスみたいなものに乗ったということになっています。」とのことでしたが、これもおかしい話なんですよ。

まずこのスタッフ、ビジネスパートナーの方を紹介した場所は、一番最初はイベント会場の山ノ内ブースだったと聞いております。それで、出席した事業者の皆さんの間では、公私混同じゃないかと話題になったとのこと。なぜなら、このとき町長は、ビジネスパートナーではなくご自身のパートナーとして紹介されたということで伺っています。

さらに、この乗合バスみたいなものですが、これは本事業において旅行会社がチャーターしたれっきとしたこの公務のための専用車両だったということなんですね。これに自身の会社のビジネスパートナーを同乗させるというのは、事前に日程、時間などの予定、同乗を手配されていることになります。

これ、公私混同じゃ済まない話ですよ。確認しておきますが、この手配をした旅行会社はどこですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） ただいまの、今の光俊議員の質問に回答させていただきますが、まずバスを手配したのは、確かあのときはJ T Bだったかとは思いますが、株式会社デフォルターレか

ら、そのバスの1人分の費用はお支払いをしております。ですので、町の費用で私の会社のスタッフが移動したということは決してございません。

そして、何度も、それこそ副町長言っていますが、私この議場の場でうそをつく気はありませんで、私の仕事のパートナーが仕事で向こうに行ったということは説明させていただきまして、何をそんなに、あたかもすごい悪いことをしているように言いたいのかよくわかりませんが、実際イベント自体は粛々と今企画、進行中でして、スーパーボールという会社、多分ご自身でもインターネット使われればすぐ分かると思うんです。AKBグループの海外ブランチということで、海外のAKBグループの取りまとめをしている会社ですが、ただいまアーティスト活動は進めており、近い将来そのイベントをやるとということで、具体的な打合わせをしたいということで、私の会社に打診があったのでスタッフが行ったということを、以前も説明させていただいております。まあ何度もずっと疑っていらっしゃるようなので、議場でしっかりと説明したことを、あたかも聞いていないとか、事実と間違えて取り上げて、あたかもあったことのように発言されることは、ちょっといかがなものかと大変思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） だから、別に疑っているということではなくて、事実の確認をしっかりととって、そして改めて報告をしていただきたいということを要望しているわけでございまして、そういった意図があるわけではございません。

これについて、最終的に調査、改めて私の申入れの趣旨を理解いただいて、調査を要望したいと思いますが、副町長、見解は変わりませんか。

議長（白鳥金次君） 久保田副町長。

副町長（久保田敦君） お答えいたします。

私の考え方は変わりません。

逆に、議員のほうでご疑問があるということであれば、議員や議会にはそれぞれ調査権があると思いますので、ぜひそこまで調査いただけるということであれば、議員のほうで行っていただければと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） またそれは個別に考えさせていただきます。

それでは次、トップセールスについて伺います。

5月下旬にオーストラリア、また行かれました。この事業、渡航など手配の旅行会社はどちらでしたでしょう。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今回は日本旅行で手配いただきました。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） オーストラリアのトップセールスにかかった費用は幾らだったか。また、アメリカの訪問先と費用はどのようになっているか。それから、タイの費用についても参考までにお聞かせいただければと思います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 先ほどお答えさせていただいたと思うんですが、詳しい費用に関しては、オーストラリアに関しては、たがいまだ精算中ということで、明確ななかったコストというものはまだ出ておりませんが、先ほどお話しさせていただいたように、300万円の予算計上して、観光局に支出しております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 補正で300万、当初予算だったかな。300万円、それはそのままオーストラリアの費用ということで、違いますか。

違うということですので、あと、アメリカの訪問先はどちらになって、どの程度の予算を見込んでいるか、これをお聞かせください。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 先ほど説明させていただきましたが、この300万円というのはオーストラリアと北米のプロモーション、こちらは県と合同というか、県から呼びかけのある事業ですけれども、そちらに行く予定なのと、タイのFITフェアの出展料や職員の旅費などが入っております。大変申し訳ありませんが、当初予算で、予算査定、観光局の、令和6年度の観光局から予算要望が来たときに、私理事長もやっている身で両方のトップではあるんですが、予算が非常に町は厳しいということから、大変申し訳ございません、今ちょっと幾らで当初要望来たか覚えていませんが、かなり削減させていただきまして、正直言うと、多分半分近い金額にした上で、この今300万円という切りのいい数字で予算をつけたということで、この中でやりくりするか、足りなければ観光局のほうで補填してねということで予算を出しておりますので、県の事業につきましては、これから詳細が、今、案内をいただいたところです。県でも参加希望の事業者を取りまとめているという状況ですので、大変申し訳ありませんが、その県の事業で幾らかかるかというのはまだ見えておりません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 私も事前に通告をしていなかったもので、詳細の金額については大変申し訳ございませんでした。

それから、オーストラリアの会場のプレゼンテーションを職員に任せたと聞いているんですけれども、これ事実ですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） オーストラリアで2回プレゼンテーションあったんですが、1個目は、町の旅行、オーストラリアの旅行会社が集まったホテルの会場を使ったプレゼンテーションというか、説明会なんですけれども、そちらは私と荻原市長と臥雲市長で、そのイベントの商談会の直前にメディアインタビューをやりまして、その後、私と荻原市長が別件がありまして、オーストラリアの連邦議員のところには挨拶に行かなければいけないということで、私はその場を離れ、山ノ内町の説明自体は観光局の職員の吉池さんが行いました。

そして、そのトラベルエキスポの会場で行った3市長によるプロモーションのステージの説明会は、私と荻原市長と臥雲市長で登壇しまして、資料もそれぞれの町の資料を画面に表示しながら、臥雲市長は松本市、荻原市長は長野市、私は山ノ内町のプレゼンテーションをさせていただきました。

以上となります。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 時間が心配なので一つだけ申し上げさせていただきます。私は正直申し上げて、町長トップセールス、海外に行ってもやる必要はないと思っていますし、先ほどの話、長野市長や松本市長との打合せということもお話ありましたが、これについては国内でもできると思っています。

国内でも町内でもやらなきゃいけないこと、検討しなければいけないことが山積していることをもっと自覚していただいて、業務に当たっていただきたいと申し上げて、次の質問にいかせていただきます。

すみません。ちょっとハラスメントについてですが、これについてはまた次回の機会に申し上げさせていただきます。コンプライアンスについてお問合せをさせていただきます。

このコンプライアンスについてですが、町長が通勤などで乗用されている札幌ナンバーの自動車についてお伺いします。まず、町長は町内に住民登録されていると思いますが、この車、個人所有の車でいらっしゃるでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） この車は、私の会社のリース車となっております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本光俊議員。

11番（山本光俊君） この自動車の保管場所の確保等に関する法律というのがありまして、第7条で、保管場所での位置を変更したとき、これ中略させていただきますが、変更した日から15日以内に、変更後の保管場所の位置を管轄する警察署長に、政令で定める事項を届けていなければならないとしてあります。

これに違反すると10万円以下の罰金が科せられまして、さらに道路運送車両法第12条には、自動車の所有者は、登録されている型式、車台番号、原動機の型式、所有者の氏名若しくは名称若しくは住所又は使用の本拠の位置に変更があったときは、その事由があった日から15日以

内に、国土交通大臣の行う変更登録の申請を行わなければならないということになっておりまして、これに該当すると50万円以下の罰金が科せられます。

このことはご存じですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） はい。存じております。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） それで、どんな状況であっても、これが個人であっても、それから会社所有の車であっても、2年以上乗用していると違法性が非常に高くなるということなんです、法律に違反しているしていないかは当局にお任せするといったしまして、この札幌ナンバーの車両を町長が乗っていることは、様々な憶測や誤解、あるいは不信感が町内などで起きているのですが、そのことはどう思われていますか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そうですね。私の個人の車はまだ購入できておりませんで、会社の車を使っております。そちら会社の北海道の事業所扱いになっておりますので、その辺は近々正さなければならないなどは思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） それから、友人や利害関係者、契約企業から自動車を提供されているとしたら、大変な問題になるという認識、こちらございますか。こういった誤解を町民の方から招かないようなことも必要だと思うんですが、いかがでしょう。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 決して今の車が友人とかからの提供されたものではありません。私が代表取締役を務めます会社のリース車両となっておりますので、そこは問題ないのではないかと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 何が言いたいかという、これ何か登録を変えられない理由があるんじゃないかということ、町民の方からちょっと私もいただきましたのでお伺いをしているんですが、この辺どうお考えですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 厳密に言うと、私が平日に動ける時間がないので手続に行かれないということもあります。現状、会社でその手続をするかしないかという判断をしなければならないとは思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） こちらは早く手当てしていただいたほうがよろしいかと思しますので、よろしくをお願いします。

それから、まだ幾つかコンプライアンスに関してあるんです。今年1月にサン・ジェルヴェ・レ・バン市との友好都市の調印式、文化センターで交流パーティーがありました。このとき来町されたサン・ジェルヴェ・レ・バン市のご一行の宿泊先が、当時議長の湯本晴彦議員の経営する旅館でした。さらに、文化センターでご一行の歓迎レセプションがあったにもかかわらず、なぜかもう一度、2度目のパーティー、懇親会ですかね、同旅館で行われました。

このことの経緯や思いというのはいろいろあると思うんですが、事実として受入れをしている。事業者はそれに対する売上げ、収益には感謝もするし、今後にも期待する。つまり、はたから見れば議員活動に何らかの影響を及ぼす可能性があると思われま。

これ、一般的にどのように見えるか分かりますか。ちなみに、このことを知った町民の方から、議長の役得、そう言われたので申し上げさせていただきます。まあこれ一番言われちゃいけないことだと思いますが、いかがでしょう。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 確かにその配慮不足が我々に多少あったと思います。特に議長のためにという話はないんですが、サン・ジェルヴェ・レ・バンからいらっしゃった方々に、渋温泉の町並み、風情を体感していただきたいと思って、旅館先を渋温泉にしようということと、ある程度やはり、なかなか、ご存じのように旅館というのは、1人1部屋でシングルユースというのは嫌われますので、そこで融通というか、無理を聞いていただけそうところということで、私たちの担当課で議長さんの旅館にお願いをしたと私は聞いております。確かに議員のおっしゃるとおり、そこへのちょっと配慮はもう少し必要だったかなと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） それから、ふるさと納税の返礼品に、これも議員の方の個人に帰属する品物が追加されて取り扱われたりしています。ふるさと納税の個人返礼品の扱い、また別の機会に伺うとして、町内でほかに個人ふるさと納税の返礼品として品物などを扱ってほしい人がどう思うかやどう見えるかということも、ちょっと考えていただければと思います。

それから、歴代の正副議長経験者で構成する白樺会という会があるんですが、今年の1月にその総会がありました。その中で、会員の方から、町長の給料はどうするつもりだというような問いがあって、その問いには町長は、今、戻してもらおうように議会にお願いしているというような発言をされました。

全協など公式な場で一切そのような話は出ていないので、一体誰とお話ししたんでしょう。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 確かに議会のオフィシャルな場でそういうお願いはしておりません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） ですから、この話、その場で話した発言の趣旨、どういった方に話をしたかお伺いします。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 特に特定の議員と、たまに雑談するときにそんな話をしたかと思いますが、そのレベルの話をそこでさせていただきました。

以上です。

議長（白鳥金次君） 山本議員。

11番（山本光俊君） 間違わないでいただきたいんですが、いいですか。我々議員は、町長から事業協力の負託を受けているのでは断じてなく、町民の皆様から公正な行政運営の精査の負託をされているということ、よく肝に銘じていただきたいと思います。

最後に2つ申し上げます。

1つ目、町長はよくことわざや格言、古事を引用されますが、私からも申し上げます。「李下に冠を正さず、瓜田に履を入れず」という格言があります。これは、スモモの木の下では手を上げて冠を直してはいけません。瓜畑では靴を履き替えてはいけませんということです。そんなことをすれば、スモモや瓜を盗もうとしたと疑いがかけられるからです。つまり、他人に疑いをかけられるような行動、言動はしてはいけませんということを戒めています。

公人であり、行政の長であり、町長は道義や倫理を含め、特に配慮が必要だということをおしらせさせていただきます。

2つ目、昨年12月定例会の閉会の挨拶で、あなたは、町が抱える多くの課題について、うわさ話を取り上げるのではなく、建設的な議論を行い云々というくだりがございました。こども海外留学支援補助金を指しているのだと思いますが、事実誤認でございます。

そもそもこのことは、はじめに小林仁議員がこども未来課長に伺ったところから始まっています。それから、私が独自に情報収集していくうちに、複数の町民から、保護者から直接聞いた、こんなことがあっていいのか、職員は何をしているのか、しっかり町長に伺ってほしいなど、様々な意見があつて質問をした次第です。

議員の一番の業務は、行財政運営のチェックと町民の皆様からの声を町に届けること。その職責を背負って今この場所にいます。

町長、あなたは行財政運営についてかなり理解が深まったと発言されておりました。何について理解が深まったかは分かりませんが、一番大事な根本に対する理解が全然深まっていないように見えます。いま一度、ご自身の言動、認識を見直していただくよう要望いたしまして、質問を終わります。

議長（白鳥金次君） 11番 山本光俊議員の質問を終わります。

ここで議場整理のため、午前11時10分まで休憩します。

(休憩)

(午前10時59分)

(再 開)

(午前 11 時 10 分)

議長(白鳥金次君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長(白鳥金次君) 9番 渡辺正男議員の質問を認めます。

9番 渡辺正男議員、登壇。

(9番 渡辺正男君登壇)

9番(渡辺正男君) おはようございます。本日2番手を務めさせていただきます。

3月議会の一般質問で、町制施行70周年と、つけ麺誕生70周年、一緒になるということで、記念のトークイベントを開催していただきたいというような要望を、一般質問の中で取り上げさせていただきました。

6月1日、これが町の主催で志賀高原の98会館で開催をされ、私もこれはぜひ行かなければということで参加させていただきました。大変勉強にもなったし、その後、復刻版の昭和30年版のつけ麺、もりそばですね。特製もりそばも大盛りで食べさせてもらいました。

本当に、この町の70年の歴史を改めて勉強することができて、先人の皆さんがこの町から300人近くのラーメン職人さんになって、東京で一大ラーメングループを築いたという、そうした、またつけ麺を生み出したというような先人の皆さんの偉業に、本当に改めてこの町のすごさというか、そういう尊敬の念を抱くことができました。担当課の皆さんには本当に感謝したいと思います。

それでは、通告に従って一般質問を行います。

1番、地域力創造アドバイザー事業をどう総括するか。

(1) 制度活用での費用と成果は。

- ①空き家対策の取り組みは。
- ②移住定住促進の取り組みは。
- ③関係人口創出の取り組みは。
- ④ふるさと納税増額の取り組みは。

2番、統合学校整備をどう進めていくか。

(1) 学校づくり準備委員会タイムスケジュールは。

- ①共用する施設は。
- ②新設する施設と費用は。
- ③学校経費と交付税計算は。
- ④空き校舎の活用方法は。

(2) 「町全体が学園」構想とは。

(3) 「こどもがまんなか」「こどもにやさしいまち」をどう実現するか。

3番、温暖化、気候変動下での農業振興にどう取り組むか。

- (1) 町の平均気温の変動や遅霜や豪雨等の頻度は。
 - (2) 気候変動が町の農業に与える影響は。
 - (3) 農作物被害への対応は。
- ①ブドウ棚倒伏被害への新たな支援策は。
 - ②降雹被害への対応は。
- 以上です。再質問については質問席で行わせていただきます。

議長（白鳥金次君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） 渡辺正男議員のご質問にお答えします。

1の地域力創造アドバイザー事業をどう総括するかのご質問ですが、令和2年度から4年度の3年間、総務省の地域人材ネットに登録されていた外部専門家の株式会社CASE、近藤威志氏に地域力創造アドバイザー業務を委託しておりました。

令和4年6月の定例会で、当時の移住交流推進室長が答弁しておりますが、移住定住の促進と関係人口の創出、空き家の活用等に関して取り組んでいただきました。費用と成果など細部につきましては、後ほど未来創造課長に答弁させます。

大きな質問2の統合学校整備をどう進めていくかについて3点のご質問であります。学校統合に係る基本方針は、昨年度教育委員会で町立小学校適正規模適正配置等審議会を設置し、学校統合の在り方や設置箇所について審議、答申をいただく中、新たな学校統合の指針となる山ノ内町立学校適正規模適正配置に係る基本方針（改訂版）を策定していただきました。

それを受けて、本年3月13日開催の総合教育会議で、統合小学校は義務教育学校として、小・中学校が一体となった9年制の学校を設置する。設置場所については、中学校敷地を活用し、開校時期については、遅くとも令和12年4月の開校を目指す、説明を教育委員会から受けました。

私としては、一貫して主張してきた魅力ある教育内容と魅力ある教育環境のいずれも実現できる提案だと理解し、この方針に基づき、学校統合を進めることで教育委員会と合意いたしました。

今後は、教育委員会が設置した山ノ内町立学校づくり準備委員会において、令和12年4月、新たな学校の開校に向けて、学校運営方針などの検討を進め、施設整備については、令和8年度中に基本設計、令和9年度中に実施設計、令和10年から2年かけて建設改修工事を行うスケジュールであると聞いております。

なお、いただいた質問の細部につきましては、教育長から答弁させます。

大きな質問3の温暖化、気候変動下での農業振興にどう取り組むかについて、3点のご質問をいただいております。

昨年の降雪に伴うブドウ棚の被害や、先日の降雹と強風による農産物被害に遭われた生産者

の皆様におかれましては、心よりお見舞いを申し上げます。

今回の雪や雹にかかわらず、昨今の気候変動による異常気象は、年間を通じて農作物の被害に遭うリスクが深刻化しています。当町は、全国に誇れる果樹産地でありますので、生産者の皆様の安心・安全が確保できますよう、できる限りの対策が必要と考えております。

詳細は、後ほど農林振興課長から答弁をさせます。

私からは以上となります。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） それでは、地域力創造アドバイザー事業につきまして、町長答弁に補足してお答えをいたします。

(1) 制度活用に係る費用につきましては、令和2年度は100万円、令和3年度、4年度についてはそれぞれ560万円で、3年間で合計1,220万円を委託料として、株式会社CASEにお支払いをしております。委託料の支払いに当たりましては、町財務規則の規定に基づき、提出された業務完了報告書により検査を行いまして、契約期間内に実施された内容は適正であったと認識しております。また、特別交付税の財政措置の基準を満たしていることを確認しております。

続いて、成果についてですが、①の空き家対策、②移住定住促進の取り組みにつきまして、併せて説明いたします。

湯田中地区では、株式会社CASEが空き店舗の賃貸契約を結び、そこを拠点としまして活動を行ってまいりました。奥の居住スペースにはスタッフが住みつつ、シェアハウスとして活用するために整備されました。店舗部分にはスタッフが常駐し、シェアキッチンや地域製品の販売を行う役割を持った関係案内所として活用するためにリノベーションを進め、令和5年3月にオープンしました。

町との契約終了後、令和5年4月以降は、地域内外の事業者により有効に活用されていたと承知しております。令和4年度にはすがかわ暮らし応援隊に入隊をし、須賀川地区の空き家の掘り起こし、所有者へのアプローチ、交渉を進めたものの、活用できる物件が見つからなかった旨、報告を受けております。

③関係人口創出の取り組みについてですが、先ほど説明申し上げた湯田中の店舗、リノベーション中に、リノベーション体験と併せまして、社会人を対象としたワーケーションや、大学生を対象としたスタディーケーションなどのイベントが開催されてまいりました。須賀川地区では、米、大豆、ニンジンなどの作物に延べ30名の関係人口を受け入れております。新型コロナウイルスの影響で、町外から実際に受け入れることができた人数は想定以下であったと認識はしております。

④ふるさと納税増額の取り組みについてですが、関係案内所の整備、空き家関係の調査が活動の中心となり、ふるさと納税に関する実現可能な提案はございませんでした。ただし、須賀川地区の耕作放棄地で栽培したニンジンでオリジナルのニンジンジュースの商品化に至ってお

りまして、この実績を基にしまして、元地域おこし協力隊の方がニンジンの栽培を引き継ぎ、新しい賞品をつくり、道の駅で販売が始まっております。こちらの商品につきましては、ふるさと納税の新たな返礼品として、登録作業を進めてございます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 渡辺正男議員のご質問に、私からも補足してご答弁申し上げます。

大きい2、統合学校の整備をどう進めていくか、（1）学校づくり準備委員会タイムスケジュールはとのご質問です。

教育委員会では、統合学校の開校に向け検討を進めるため、山ノ内町立学校づくり準備委員会を設置し、5月14日に第1回の委員会を、昨日には第2回の委員会を開催し、準備委員会の役割、今後のスケジュールなどの説明、さらには教育未来ビジョンを推進するための取組などについて検討を進めているところでございます。

今後は、新しい学校づくりの基本コンセプトを明確にした上で、統合学校に必要な施設、設備などの整理を行い、令和8年度に基本設計、令和9年度には実施設計、令和10年度からは現中学校校舎の改修と全期課程用の校舎の増設等を実施し、令和12年4月開校を目標に、新しい学校づくりを着実に進めてまいりたいと考えております。

統合学校の開校に向けては、施設整備のみならず、学校運営方針や教育内容の充実を図るための検討も必要となりますので、令和10年3月までには、子どもや保護者、町民の皆様からできる限りのご意見をいただきながら、新しい学校像を具体的にお示しできたらと考えております。

次に、①共用する施設は、②新設する施設と費用はとのご質問ですが、関連いたしますので一括してお答えいたします。

今回、義務教育学校として小・中学校が一つとなった9年制の学校になりますので、現行の中学校施設は最大限、小・中学生で、全員で共用していくことを想定しており、その上で不足する普通教室や体育施設、全期課程用の特別教室、またコミュニティスクール充実のため、地域の皆様との共同活動等で必要となる多目的スペース等を新設する想定しております。

なお、施設の改修や新設に係る費用は、今後、基本設計の段階で概算をお示しできると考えております。

次に、③学校経費と交付税計算はとのご質問です。

学校統合により、学校数2校、教室数8学級の減が見込まれますので、普通交付税の基準財政需要額の算出によりますと、統合する年次から5年間、段階的に需要額が減額いたします。仮に令和6年度における算出基準で計算しますと、学校数の減によって2,500万円、学級数の減によって1,500万円程度、需要額の減額が見込まれます。

一方、学校運営に係る経費ですが、令和5年度の実績ですと、中学校で約7,700万円、3小学校の合計額ですと約1億2,900万円となっておりますが、学校統合することで、学校修繕等

に係る費用を除く施設の維持管理費などを中心に、4,500万円程度の削減になるのではと見込んでおります。

次に、④空き校舎の活用方法はとのご質問です。

校舎の活用方法については、子育て支援や児童の放課後対策のための施設、民間事業者との連携による活用など様々な活用方法が想定されることから、学校づくり準備委員会でも、利活用の基本方針について、今年度から学校づくりの議論と並行して検討してまいります。

なお、あくまで町の公共財産となることから、最終的な活用方法は、町部局と協議した上で決定いたします。

次に、(2)「町全体が学園」構想とはとのご質問であります。今回、学校統合することで、町内に学校は1校となるため、現状の3つの小学校における地域とのつながりを大切にしつつ、さらに豊かに充実できるよう、町全体を子供の育ちと学びのフィールドとすることを町民全体で認識を共有し、新しい学校を拠点としながらも、子供たちが誕生してから中学校卒業までの少なくとも15年間は、従来の小学校区の枠を越えて、町のどこでも全ての子どもたちが安心して思う存分遊んだり、様々な体験ができる環境整備を、町民の皆様にお力添えいただきながら進めていきたいと考えています。

そうした「町全体が学園」というイメージの共有が、コミュニティスクール活動の充実にもつながると考えており、山ノ内らしい魅力あふれる新しい学校を、子どもと大人が共につくり上げていく、そんなプロセスを大切にしたいと考えております。

最後に、(3)「こどもがまんなか」「こどもにやさしいまち」をどう実践するかとのご質問です。

本年3月議会にて、山ノ内町こども基本条例が制定され、同月21日より施行いたしました。この条例は、国際法である子どもの権利に関する条約と、国のこども基本法の理念に準拠しており、まさに国が掲げる「こどもまんなか」の環境づくりを、子どもの人権尊重を軸として、子供支援や教育分野に限らず、町政全体で具現化することを求めているものです。

そのためには、まず町と教育委員会が密に連携して、子どもを取り巻く現状を的確に理解し合い、多様な子ども一人ひとりの最善の利益に寄り添う価値観の共有が不可欠であります。今年度、学校統合に向けた新しい学校づくりでは、町こども基本条例の理念を保育園から小・中学校の教職員や保護者、地域の皆様にも周知を進めているところでございますが、既に、教職員の中からは、「こどもまんなか」や子どもの意見を聞きながら教育活動を共に作り上げる意識の醸成が感じられております。

「こどもにやさしいまち」づくりについてですが、国内での取り組み例を見ますと、日本ユニセフが2021年から推進しております日本型子どもにやさしいまちづくり事業というものがございまして、既にニセコ町、安平町、奈良市ほか7つの自治体実践自治体または候補自治体となつてございます。

例えば、この事業における承認を目指すための具体的な施策の展開や、国際基準に沿った

事業評価などに、当町も取り組むということができれば、名実ともに山ノ内町全体が「こどもにやさしいまち」として国内外から広く評価されるようになるのではと、私としては考えているところでございます。

令和12年4月に向けたこれからの5年間で、山ノ内町の子どもたちを取り巻く環境は大きく発展すると期待していますが、ぜひ5年後にスタートする新しい学校が、子どもにやさしい山ノ内町の象徴となり、全ての子どもの幸せを全ての町民が願い、寄り添える、そんなまちづくりが進むことを心から願っております。

以上でございます。

議長（白鳥金次君） 農林振興課長。

農林振興課長（金井哲也君） 渡辺正男議員のご質問にお答えします。

3の温暖化、気候変動下での農業振興にどう取り組むか、（1）町の平均気温の変動や遅霜や豪雨等の頻度は、（2）気候変動が町の農業に与える影響はとのご質問ですが、過去5年の範囲において当町の霜による被害は、令和2年、3年、5年に発生しております。特に令和5年の4月は、リンゴ、プラム、桃、サクランボに対して、被害面積91ヘクタール、8,800万円程度の被害がありました。

雹による被害につきまして、直近ですと、令和3年、4年にリンゴの被害があり、令和3年6月と9月の被害は、上条、佐野におきまして、被害面積40ヘクタール、被害額4,600万円となっています。

また、先月の5月21日夕方に発生しました降雹と強風による被害の状況ですが、果樹にあつては、東部の金倉、菅、寒沢地区を除く全域で果実に傷、枝折れ、葉落ち、またアスパラの茎折れ被害が佐野、本郷の一部でありました。農業施設への被害も確認され、ブドウの加温ハウス、雨よけの被害が3件ほど発生しました。

被害面積と被害額につきましては、果樹のリンゴ、桃、プラム、ブドウの被害面積が20ヘクタール、被害額が2,000万円、アスパラが5反歩で10万円、施設被害が570万円で、被害の合計額を2,580万円として県へ報告しております。

被害発生日にJAながのの職員によるパトロールを実施し、翌日には北信農業農村支援センター、JAながの、町農林振興課3者による現地パトロールと情報共有を実施しました。

このような異常気象も昨今の温暖化が影響しているものと思われます。日本全体の温暖化が気候変動による様々なリスクを抱える中、町の農業にも影響を及ぼす可能性がございます。

町の平均気温についてですが、町勢要覧2005年、平成17年になりますが、2023年、令和5年とを比較した場合、2005年が10.9度、2023年が12.5度となっており、約20年で平均気温が1.6度上昇しております。

これらの温度上昇による農作物へのリスクとして、水稻や果樹などの品質低下、栽培適地の変化などが懸念されます。また、病害虫の発生が増加することで、農業経営に大きな影響を与える可能性がございます。特に果樹園地への影響は大きく、平均気温の2度の上昇によって、

生育時期が早まることで低温や霜による被害のリスクが高まること、リンゴやブドウにあっては着色の不良の影響、桃にあっては核割れ、日焼けへのリスクが考えられます。

次に、(3) 農作物被害への対応は、①ブドウ棚倒伏被害への新たな支援策は、②降雹被害への対応はとのご質問ですが、昨年末の降雪による被害につきましては、西部、東部、戸狩地域の一部のブドウ棚が7ヘクタールにわたって倒壊被害に遭いました。この農作物被害対策支援として、JAながの志賀高原と共同で仮復旧のための角材及び消雪剤の購入支援のほかに、町単独支援としてブドウ園地までの農道除雪を実施し、併せて棚起こしの人的支援を協力しました。

今後のブドウ棚倒伏被害への新たな支援策ですが、5月にJAながの志賀高原より、平棚の復旧に要するアンカーや、パイプなどの資材に対する支援の要望があったところです。今後の支援に関しまして、近隣の中野市の支援状況などを確認しながら、町としての支援について検討しているところです。

先月に発生した降雹による農作物被害への支援につきましても、併せて関係機関と連携し、対策を講じていきたいと考えております。

以上となります。

議長（白鳥金次君） 再質問を認めます。

渡辺議員。

9番（渡辺正男君） それでは順番に再質問を行います。

この地域力創造アドバイザーさん、先ほどの会社の名前、代表者の名前も出ましたが、経営破綻に陥って破産手続が開始されているということで、先ほどの店舗で、店舗があって、その奥ではシェアハウスというような建物が当町にもあるわけで、その差押えというんですかね、破産手続に入ったということで、当町とすれば、3年間の契約で報告書も出していただいたり、特交措置も満額受けたということで、そんな大きい被害があったわけではないのかなと思います。

ただ、会社が所有していた建物がそういうことになっているということで、例えばかなりのそのことで成果が、助言をいただいた、そして報告書をいただいた、いろいろイベントも開催してもらった。それで、その成果というのは先ほど説明もいただいたんですが、これだけのお金をかけて、目に見えて成果があったのかなとはちょっと見えない部分もあったり、実際に全国各地で活躍されていた方で、令和5年度については同時に7市町村のアドバイザーをやられていたということで、これ、それぞれの契約先から、先ほどの説明、1人560万円ですか、今590万円になっていますが、560万円ずつ、それぞれ7市町村やっていけば、全部それ掛ける7でもらえるということなんですかね。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

当町の実情は承知しており、先ほど報告申し上げたとおりですが、ほかの市町村の状況につ

いては把握しておりません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 経営破綻をされて、新聞報道によると、この社長の方はもう放っておいてくれというようなコメントをしたという記事でした。ちょっとふざけんなよという気持ちにもなったんですが、なぜ破綻したのかという、その辺は課長としてどんなふうに分かれますか。

これだけのお金、総務省から特交で全部来るので、そんな損したということはないんでしょうが、この事業を取り組んで、あの方、あの会社に来てもらって、本当によかったと思っているかどうか、その辺、総括お願いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

まず、破綻の理由についてですが、こちらについては補助金ビジネスと報道でもされておりましたとおり、それがうまくいかなかったということでありまして、当方、町として何か感情を持つものではないかと思えます。

もう1点、成果につきましては、先ほど来申し上げていますとおり、毎年度、隔年ごと、それぞれ議会の皆さんに報告を申し上げまして、皆さんにも確認をいただいているとおりでと考えております。

あとは、現在様々な移住定住事業、またふるさと納税の事業、継続しておる中で、多少なりともそちらの経験が今の職員に引き継がれているのかなと考えたいと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 先ほどの店舗兼シェアハウスのそこが破産手続に入って、その影響、これ町民の方とか、その近隣、そこに関わっておられた方の実害というのはどんなふうになっていきますかね。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

先ほど議員から所有ということでおっしゃられましたが、私ども、CASEの所有とは認識しておりませんものですから、ほかに所有者の方が既に次の事業に向けて進めばよろしいかなと思っております。

その上で、ほかの町民の方、そういった方々がまた活用されるのであれば、町に制度上そういったことを使えるものがあれば、町としても連携していければと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 私なりにこの破綻の理由というのを、ちょっと考えさせていただいたんですが、山形県の西川町というところの地域力創造アドバイザーをしておられて、途中で契約解

除となったんですが、地域活性化起業人、先ほど山本光俊議員のところでもありましたが、このCASEにというか、山形の西川町のところですね。地域活性化起業人が2人入っていて、そこに地域おこし協力隊、これも総務省ですけれども、地域おこし協力隊員が5人、この会社で働いていたんですよ。

総額にすると、西川町は1年に4,000万円くらいの、総務省から特交で来る部分もありますが、これだけのお金を出して町おこしをやらしてもらっていたということですが、この地域おこし協力隊の制度がちょっと厳格化されたんですよ。6年の4月からかな。その厳格化されたことで、企業で働くということができなくなって、結局そのCASEで働く地域おこし協力隊員が撤退せざるを得なくなって、町としても委託して事業を続けてもらうわけにはいかなかったんで打ち切りみたいなね。これが全国で、先ほど言った7自治体同時にやっていたりする中で、この影響があつて破綻に至ったのかなと思います。

この社長さんは西川町でこんなこと言っていたみたいです。「国から出るお金だからどんどん使えばいいでしょう。」というね。その補助金ビジネス破綻と先ほどありましたが、うちの町でもこんなような発言をしてあったようなふうに私も聞いています。国から出る金なんだからどんどん使いましょうよというね。そんな感じがあったと思います。

総務省が、この地域おこし協力隊員を町の会計年度任用職員として正式にこなさいと。今までは朝何時に起きてどこに行つてということがすごく緩かったんですよ。町も最終的には農業、町でやってくればいよいよみたいな形でしていたんだけど、制度の見直し境にかなり厳しくなったということだそうです。その辺のことが影響しているのではないかなと思います。

そんなことを教訓として、長野県でも喬木村や飯島町、岡谷市なども同じようにちょっと迷惑を被ってしまったというような部分もあります。

また、地域おこし協力隊、それから地域活性化起業人、当町でも、先ほど山本光俊議員が質問されましたが、ミスマッチや中途契約打ち切りというような、思うようにいかなかった例がいふ出ているなと思います。

総務省も、コロナのときにいろいろ考えてこういう制度をやって、一石二鳥になればいいと思ったのが、実際に一石一鳥にもならないというようなことが起こっていて、今後この地域おこし協力隊員、それから地域活性化起業人を、どうこの反省を生かして今後活用していくのか、その辺について町長から答弁いただきたいと思います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） ただいま議員おっしゃっていただいたように、なかなかしっかりと使った使い方、厳格化した使い方をしなければ、この制度はいけないと我々も反省をしております、今後、町としまして、起業人、また協力隊を採用する際には、しっかりと面接や、ある種、言い方が悪いですけども使い方、そして特に、起業人は企業に属していますのでいいんですが、協力隊に関しましては、3年後の、ここに定着する方法までを考えた上でしっかりと活用方法というものを考えていきたいと思っております。

私自身も、近藤社長と少し話したときに、似たようなことを、オファーではないですが、話されて、私は制度を知っていますので、うちの町でそういう使い方はしないということで話したように記憶しています。近藤社長としては似たようなことで、国のお金を使って山ノ内町であそこを回したいというようなことを、少しいただきましたが、私としては、オープンしたときですね、ちょうど。特にそれを採用しようとは思いませんでしたので、今後、町としてはしっかりと、国のお金ですけれども、しっかりした活用というものをしていきたいと思っています。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 先ほどの報告書も出してもらったということと、議会にも報告って、私あまりこの会社と近藤さんにお会いしたことがないので、どんな報告書が出ているのかというのがちょっと分からないんですが、何ページぐらいな、どんなものが出ているんですかね。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

現状、手元にございませんで、何ページと答えづらいんですが、その年に行いました事業内容ですとか、こちらに来ていた日の日報ですとか、そういったものだと感じております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） また、そういった報告書、活性化起業人の中途解約になった方の報告書というのは議会に提出いただいています、このCASEの場合のというのはちょっと資料、私持っていないので、また議会に提出していただければと思いますが、できますか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 毎年の決算で事業内容の報告はしておりますので、必要ないかと思いますが、要望されるようであれば、またうちのほうで準備できるものはしたいと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 今後の教訓としてしっかりまた反省をしながら、私たちもしっかりとチェックもしていかななくてはいけないという気持ちを新たに、その資料も見させていただければと思います。

それでは、次の学校統合なんです、私が心配な部分だけ今回上げさせていただきました。

学校統合のことについてはほぼこれから検討するので、上げた質問についてはほぼ答えられないという形、今後検討することになってしまうんですが、最初から手狭でこの場所ではというようなことを、再三あってきたんですが、何かとてもいい学校になりそうだという、それが私は、どうやって手狭さを解消したのかというのが全く理解できないんですね。

義務教育学校にしたから、いろいろな施設やグラウンドや何かも共用できるから狭くなくな

ったということなんですかね。その辺いかかでしょうか。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） お答えいたします。

まず、山ノ内中学校、現在の敷地面積だけで申し上げても、例えば、今我々として一つ比較というか、参考にさせていただいている信濃小・中学校と、むしろ山ノ内中学校のほうが若干大きいくらいの敷地があるということがまず一つあります。

以前から、やはり現在の小学校の人数、児童たちと中学校の生徒たちが一緒に学ぶということで、500人を超える想定での敷地の活用ということでいったときに、1人当たりの単純計算ですが、平米数が大分狭いんじゃないかというような議論を昨年もしてまいりました。

それは、中学校の校舎を基本的には中学生だけで使うという前提での考え方があったかと思いますが、そこをクリアするというで義務教育学校という提案をさせていただいて、現在の中学校の校舎も、例えば小学校でいうと5年生以上も含めて、5、6、7、8、9年生で今の中学校校舎を活用できないか。そうすると、残り1、2、3、4年生分の新築の校舎を建設するというようなことを中心に、これから検討をしていくことができないかということも考えております。

できる限り、限られた敷地を有効活用しつつ、またいろいろ今後、駐車場の問題とか、そういったようなことも当然想定されますので、さらに周辺も含めていろいろ議論をしなくてはならない要素も出てくるかなとは考えておりますが、基本的には、今後は子どもたちにとってよりよい教育内容を実現できるための環境デザイン、それをしっかり知恵を絞っていくと、そういうところに注力をしていきたいと考えているところです。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） やはり今の説明を聞いて、義務教育学校だから共用できるものがたくさん想定できて、平成30、31年度に大規模改修、長寿命化改修を整備済みになっている中学校を何とか使えないかで、義務教育学校という道を選んだのかなというふうに。テクニク的にはそういう発想もあるかとは思いますが、結局1人当たりの面積というのは広くなるわけではないんですよ。中学校だけで使うというのを共有するから、ちょっとは増えるかも知れませんが、

北小学校がまだあった時代に、教育委員会が親御さんたちにアンケートを取った中で、「学校のことで満足しているのは何ですか」という答えに、一番多かったのが、「広くてゆったりした学校施設」という、それが一番多かったんですよ。

それが、信濃町よりはちょっとは広いとか言いますが、そういうことじゃなくて、今、それぞれ小学校3か所、それぞれの広さがあって、中学校と合わせたら10ヘクタールあるんですよ。中学校は約3ヘクタールしかないです。そこにみんな入れちゃうということだから、狭いのは絶対間違いはないんです。

広いからいいという評価をいただいていた小学校がそういうことになる。その中で工夫しながらやりくりするんだということなので、どんなアイデアでやるのか、その辺は渡辺議員として、もし必要であれば、こんなふうにしたらどう、ああいうふうにしたらどうというような、議員の立場で提言もさせていただければと思いますが、ちょっと不安なんです。新たな用地が必要になるというようなことも、ある程度想定していなければいけないか、廃校になった後も、その施設を一部使わせてもらおうとか。そういう、一部使いながら広さの問題をカバーするとかいうようなことも必要になるかなと思っています。

その辺どうですか、スクールバスがどのくらい必要かとか、今聞いてもきっとこれから検討となってしまうと思うんですが、本当に、この義務教育学校になったから広さは大丈夫というのではなくて、先ほどの駐車場や何かも含めて、いざイベントがあるときには絶対狭いです。これを、新たな用地の取得も視野に入れながら今後検討するのか、その辺お願いします。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 新たな土地の取得については、まだまだこれからの話でございますので、ここで明言することはできないわけでございますが、いみじくも渡辺議員が今回ご質問いただいたように、町全体が学園であるというイメージから取りますと、昨日の準備委員会でも、やはり今までの学校のイメージを、いかに大人がそれを超えて捉え直していかれるかというようなことが、いろんな方々から意見出たわけですが、従来であれば学校施設、学校敷地、校舎の中で完結する教育というものが学校教育であるというイメージが強かったと思います。これからは、私個人としてもぜひ町の様々なリソースを活用しながら、校舎は一つのベース、基地であります。町にどんどん、校舎の敷地の外に子供たちが、既に今も地域で学んでいますけれども、どんどん飛び出していきながら、様々な人々との交流の中で学んでいくということも大事にするというイメージをお互いに共有しながら、限られた校地、校舎も最大限有効活用しながら、それプラスで子供たちの豊かな学びをどう実現するかという議論を広げていければと思っていますところでは。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） あと、またちょっと心配なところについてですが、先ほど交付税計算のところ、学校に係る基準財政需要額の算定で、3校が1校になる、学級数が減ることによって幾ら交付税が減らされるかというのが、2,500万円と1,500万円ということで4,000万円減るわけですね。

これは町で効率化する中で、維持管理しなきゃいけない面積が少なくなるので、かかる費用は減る部分もあると思いますが、私心配するのは、教職員の配置基準です。3校あれば今配置されている先生方、それから事務の職員含めて、その配置基準、1校になった場合にこれがどんな数になるんでしょう。今現在何人、国で配置されているけれども、県で配置ですか、されているけれども、一緒になって1校になった場合には、この職員の数は何人に減るとい、そ

の辺は分かりますか。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ちょっと今、手元に十分資料がないので具体的な数字を申し上げられないので、また後で確認をしてご報告をさせていただきます。一般的などいうか、従来の考え方で言いますと、子供の数が35人と、1クラス35人という基準の中で、国費また県費による教員の配置基準というものが定められていますので、それが今後変わらないという前提で言いますと、現在4校あるものが1校になると、全体としての、いわゆる町費以外の先生方の人数というのは減るだろうと考えられます。

ただ、山ノ内町は大変ありがたいことに、町費の講師や支援員の先生方、非常に手厚く予算をつけていただいておりますので、今後、もし現状と同じような予算で配置していただければ、4校のそういった町費の人材は集中的に1つの学校でご活躍いただけるということで、全体からすると決して遜色ない、もしくは今以上に一人ひとりの子どもたちに目が届く、そういう環境づくりは可能であるとは考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 文科省の配置基準で考えますと、今、3小学校8クラスずつあるんですね。通常であれば、普通の計算式でいうと、およそ39人が、その職員、養護教員、校長も含めてですが、39人が配置基準です。

これ1校になると、小学校だけだと19人という計算です。単純に半分だよ。先生が半分になる。面倒見る子供たちは変わらないです。同じ人数を半分で見ることになるんです。先生同士が切磋琢磨できるとか、クラス替えができるとか、いろいろメリット言われましたが、私は、先生が減ること、面積が狭くなること、絶対いい環境つくれないということはずっと申し上げてきたんです。

今さらこれ戻せとは、そういうふうにはならないかもしれないですが、この先生の配置基準、こうなった場合に、逆に町費の先生を大勢つけなきゃいけないんじゃないですか。その辺どうですか。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 今後5年間に向けて、例えば様々な特性を持った子供たちの割合も増えていくというような予測もありますし、議員おっしゃるとおり、より手厚い指導体制といえますか、支援体制というものが必要になるだろうと私も思います。

そもそもの話で申し上げますと、県費での教員配置基準そのものも、ぜひもっともっと、何て言うんですかね、手厚くしてほしいということ、現在も市町村からも要望しておりますけれども、そういったようなことも同時にしっかり市町村、町の立場から、県や国にも訴えていくということも努力をしていきたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 準備委員会もまだ始まったばかりなので、今後本当に慎重に検討していただきたいと思いますし、臨機応変に、必要であれば用地取得であるとか、まるきり違う発想の転換みたいなことも含めて、子供たちが本当にいい環境で学べるような学校になるように、ぜひしていただきたいと思います。

それを申し上げまして、3番目にいきます。

先ほど、衝撃的な数字で2005年から2023年までの間に10.19から12.5ですか、1.6度上昇ですかね。この短期間で1.6度上がるというのはすごいことなんだよね。100年で2度くらい上がったら大騒ぎという、そういう状況の中で、特に去年、おとしはこの町も暑かったです。

農作物を、特に果樹を安定的につくるには、今年の秋でいえば、リンゴの色がなかなかつかない。つかないからちょっと遅くならしておく。すると実が柔らかくなってしまいます。赤くなる前に柔らかくなってしまいます。蜜はのらない。蜜がのらないからならしておく、すると、どんどん柔らかくなっていくという、硬さと酸度と糖度、それから着色、こういったものが、気温が2度上がるだけで物すごくつくりづらくなるんですよ。

早く取れば硬さと酸度はあるけれども、糖度と蜜と着色を待っていたら、そっちが失われていく。全てをいい状態にして収穫したいと思うことが、2度、3度上がってくることでできなくなる。

それから、リンゴの枝の伸びなんかも、2度上がると30%、新梢の伸びが強くなるというようなこともあったり、冬に気温が下がり切らない、春が早く来てしまうという、そこで遅霜の被害を受けやすくなる。木の水分量が上がってきたところで、凍害でやられてしまうというようなことが多かったり、早く花が咲くというようなことがあって、早く実がつく、だから霜に当たってしまう。霜の害に当たってしまうということもあるし、土壌の中の栄養や何か、気温が変わると施肥の仕方だとか、作り方自体が変わってしまうんですよ。

長野県というよりも、この間の改良普及センターの講師先生から教えていただいたんですが、山ノ内は、山梨県の甲府市だとか青森の弘前市と比べても、山ノ内は気温が、夏の気温もそうだし秋の収穫期の気温も比べて、甲府よりも弘前よりも低い。だから、この場所はそういう条件、気温が上がって作りづらくなっている産地と比べれば、山ノ内はまだまだ作りやすい、適地だよという話だったんですが、これから2度上がったらこんなこと起きますよというところで、大分恐ろしい話を聞かせていただきました。

要は、害虫の出方も違うし、土壌の栄養だとか、それに対しての施肥の仕方、それから剪定の仕方、そういうのをみんな合わせて変えていかなければいけない。同じ品質のものを出荷するには、ということです。

そこでちょっと提案なんですけれども、バイオスティミュラントという新しい技術なんですけど、植物が、生物的なストレスだとか、温度の変化だとか水分の変化だとかに対するストレスに対して、土壌に加えることとか、散布することによってストレスを緩和することで収穫減を

防ぐことができる。凍霜害や何かにも強い、そういった作物がつかれるという、そういうバイオスティミュラントという新しい素材を使った対候性というんですかね。気候に対してあらがっていかれるような、そういう技術というのも出てきています。

今後の農業振興で、町で例えば応援していかなきゃいけないのは、私ども政府の議員団でも関与を申入れさせていただきましたが、例えば雪がどーんと降ったりしても、それで潰れないような、気候変動対応のそういう施設整備の補助金とか、この場合はスティミュラントに対する補助だとか、そういったこともぜひ検討をしていただきたいと思います。その辺いかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 農林振興課長。

農林振興課長（金井哲也君） お答えします。

今、議員からありましたとおり、対候性の強い施設栽培というのにも必要になってくると思います。お隣の中野市でもそういうような事業を入れておりますので、また当町としても検討してまいりたいと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺議員。

9番（渡辺正男君） 中野市では、この3月、4月頃から新しい制度が始まって、事業費1億円で40%補助するというので、対候性の強いハウスを作る場合に市が補助しますという制度です。ぜひ町でも実現をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

終わります。

議長（白鳥金次君） 9番 渡辺正男議員の質問を終わります。

ここで昼食のため、13時15分まで休憩いたします。

(休憩) (午後 零時08分)

(再開) (午後 1時15分)

議長（白鳥金次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（白鳥金次君） 6番 湯本るり子議員の質問を認めます。

6番 湯本るり子議員、登壇。

(6番 湯本るり子君登壇)

6番（湯本るり子君） 6番 日本共産党、湯本るり子です。

スーパーに買物に出かけると、米の値上がり、また粉類、油など全てが値上がりしている感じで、主婦はやりくりが大変な状況です。食料品の値上がりは日々の生活を苦しめています。

昨日、農民運動全国連合会の呼びかけで、農水省前、緊急行動が行われました。農民連の長谷川会長は、「今回の深刻な米不足は、政府農水省による2022年産米からの生産調整の強化による減産強要と需給見通しの大幅な見誤りから引き起こされた政治災害だ。農村では長年の低

米価により離農、廃業に歯止めがかからない。米政策を改め、農家が安心して米の増産に取り組めるようにすべきだ。生産者も消費者も、米屋さんも、安心できる米政策への転換を求めると協調していました。参加した人は、「食べることは生きること。それを支えるのが農業。本気で農業を支えてほしい。」と訴えていました。

山ノ内町の果樹栽培農家にとっては、5月21日に強風と雹の被害があり、摘果作業は大変です。収穫、販売も心配なものです。北信地域の被害額は2億6,382万円と報じられていました。被害に遭われた皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

明日から、東京都議会議員選挙が始まり、7月には参議院選挙が行われます。政治を動かすのは主権者である国民一人ひとりです。貴重な1票を行使して、政治を変えていきたいと思えます。

通告に従い、一般質問を行います。

1、楓の湯の入湯料について。

- (1) 料金改定後の状況について。
- (2) 利用者や現場で働いている人の声はどうか。
- (3) 町民であることの確認方法は、合理的で利便性のある方法はないか。

2、ふるさと納税について。

- (1) 趣旨は何か。
- (2) 町の実績、品目、金額は。
- (3) 須坂市のような他産地の物を返礼品としていることはないか。
- (4) 今後の取組は。

3、保育園の給食、主食について。

- (1) 米不足と物価高騰の中で、保護者のお弁当づくりは大変なので、米飯給食を実施できないか。
- (2) 電気釜などの備品はあるか。
- (3) 職員の負担、費用など実施に伴う課題は。

以上です。再質問は質問席にてやらさせていただきます。

議長（白鳥金次君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） 湯本るり子議員のご質問にお答えします。

大きな質問1の楓の湯の入湯料については、人件費、光熱費の高騰などにより、令和7年4月1日より料金改定、値上げを行いました。

楓の湯については、指定管理者である山ノ内まちづくり観光局が運営業務を行っておりますが、効率的かつ効果的な運営に努めながら、町民をはじめ、観光客に愛される施設となるよう取り組んでおります。

詳細につきましては、後ほど経済振興課長から答弁させます。

大きな質問2のふるさと納税についての(1)趣旨は何かについてですが、ふるさと納税は地方自治体の財源を確保し、地方の活性化を図るために設けられた制度です。総務省のホームページに掲載されているとおり、納税者が自分の意思で寄附先を選べることで、地域の特性や魅力を生かした施策を支援することができます。自治体はその取組をアピールすることで、地域の在り方を考えることに加え、寄附者がその使われ方を考えるきっかけとなることも意義として示されております。

(2)のこれまでの寄附受入実績、主な返礼品については、毎年の決算書及び主要施策の概要報告書のほか、町の広報誌、ホームページで報告しておりますが、詳細については後ほど、未来創造課長から答弁させます。

(3)の須坂市のような他産地の物を返礼品としていることはないかのご質問ですが、須坂市において不適切な取扱いが発覚したことを受け、長野県企画振興部が、県内全市町村に対し3月から4月にかけて自主点検を依頼しました。その結果が公表されておりますが、山ノ内町では、町外で生産された農産物を返礼品に採用している事実はございません。

(4)の今後の取組はどのことですが、これまでと同様、国の基準を遵守しながら、寄附受入額の増額に向け、粛々と取り組んでまいります。

(2)(3)(4)の詳細につきましては、後ほど未来創造課長に答弁させます。

大きな質問3の保育園の給食、主食について3点のご質問ですが、現在当町においては、国の基準に基づき、3歳未満児は各保育園において調理した主食及び副食を提供し、3歳以上児は各ご家庭より主食となる米飯の持参をお願いしております。

各保育園には電気釜がございますが、毎日米飯の提供を行うには、追加購入が必要であることや、給食室内の設置スペースの確保や電気容量を含め、設備の検証が必要と考えます。また、現状を見ましても、給食調理員の確保が難しく、全ての園で対応できるのか検討する必要もあります。保護者の負担を軽減し、子供たちに安全な温かい給食を提供することは重要ではありますが、他の子供に関する施策とのバランスを見つつ、保護者の協力も含め、慎重に検討させていただきながら、子供や子育てに優しいまちづくりを推進していきたいと思っております。

私からは以上です。

議長(白鳥金次君) 経済振興課長。

経済振興課長(田村清志君) お答えいたします。

1、楓の湯の入湯料について、(1)料金改定後の状況についてのご質問ですが、料金改定後の令和7年4月の利用者は6,131人でした。前年同月との比較で7.3%の減、一昨年同月では5.6%の増であります。4月利用者のみでの比較となりますが、今のところ大きな変動はないと考えております。改定後の入湯料については、近隣の類似施設と比較しても同程度か低額の部類になると思っております。

(2)利用者や現場で働いている人の声はどうかのご質問ですが、現場スタッフの意見と

しましては、町民割引を利用いただき、多くの町民の方に利用していただきたいという思いでおりますとのことです。町民と町民以外の区別を新たに設定したことで、一時的な混乱はあったものの、大きなトラブルや苦情というものはありませんと聞いております。

(3) 町民であることの確認方法は、合理的で利便性のある方法はないかのご質問ですが、確認方法につきましては、回数券を購入される方については免許証などで住所の確認をしております。免許証をお持ちでない方は、電話番号や住所をお聞きし判断しております。入り口及び館内にて入湯料や町民割引などの案内を行っており、券売機を利用された方について、一人ひとりの確認はしておりません。

合理的で利便性のある方法はないかについてですが、定期券やパス券を利用したらどうかのご意見もいただきましたが、入浴回数の管理や第三者に貸してしまうという問題もありますので、現時点では、券売機と回数券の利用をお願いしているところです。

町民や観光客が気持ちよくご利用いただけるよう、そのほかの方法についてもスタッフと共に相談をしております。

以上でございます。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） それでは続きまして、ふるさと納税のご質問について、町長答弁に補足してお答えしたいと思います。

大きな2の(2)町の実績、品目、金額はとのご質問ですが、令和6年度の寄附件数は6,920件、寄附金額は4億7,550万6,000円で、前年度と比較しまして件数は353件、約5.4%の増、金額は8,683万2,000円、約22.3%の増となっております。なお、この実績には、ガバメントクラウドファンディング、1,584万円分も含まれていることをお含みください。

品目につきましては、令和6年度は176品目の取扱いがございました。この場では全ての返礼品、上げることはできませんが、寄附件数及び金額の順位につきましては、山ノ内町町内宿泊補助券、志賀高原スキー場共通リフト券、志賀高原ビールが多いものとなっております。

続いて(3)他産地の物を返礼品としていることはないかのご質問ですが、これまでも国の基準を遵守しまして運営しております。山ノ内町では、町独自の返礼品採用基準を設けてございまして、特に農産物に関しては町内産であることを徹底しております。返礼品提供事業者に対しても、こちら説明を行いまして、不適切な取扱いが起こる可能性を排除するよう、事務局のほうで取り組んでおります。

(4)今後の取組については、町長から答弁申し上げた町民サービス向上のための財源確保を目的とした寄附額の増加の実現に向け、制度の趣旨に従い、地域産業の活性化と町の魅力発信をテーマとした商品開発を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 再質問を認めます。

湯本議員。

6番（湯本るり子君） それでは、楓の湯のことなのですが、私が伺った中では、身分証明書の提示がとても面倒くさいということですよ。私もあまり若くはないんですが、年配者とはとにかく免許証がないので、マイナンバーカードを持って行って、もし落としたらどうしようとか、風呂に入りに行くのにマイナンバーカードを一々持っていくなんてとても考えられない、ちょっと最近は行ってないよと言う方もいらっしゃいました。

そんな点で、私は、事務方は大変かもしれませんが、希望者にはパスポートのような山ノ内町民であるということで、あと自分の名前を書き込めばいいような何かそういうものを、全戸といたしますか、希望者に配布したらどうかと、そんなふうに思います。

年配者とはとにかく、身分証明書という免許を持たない方は本当にマイナンバーカードになってしまうので、紛失したら再発行するのに何か月もかかるというような話もある中で、その辺はぜひ別な形、それで今現在、窓口で働いている方に伺いますと、とにかく地元の人じゃなくて、近隣から見えている、中野市とか近隣からご利用される、そういう方に、あなたたちは山ノ内町民とそうでないというのどうやって区別しているんだと言われるのがとても多くて、その辺がきついとか、あんまりうれしくないとか、とにかく値段が100円安いのはありがたいのだが、ぜひ何か、もっといい方法はないだろうかということでも言われたんです。先ほど課長からの答弁もありましたが、もうちょっと何か考えていただくことはできませんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 経済振興課長。

経済振興課長（田村清志君） お答えいたします。

面倒くさいですとか、なくしたら心配だという、それは確かに分かります。先ほどもご答弁申し上げましたが、券売機の場合、一人ひとり確認しているというものもありません。自ら町民ということであれば、住所をお聞きするとか電話番号をお聞きするというので、町民と判断できればそれで対応させていただいております。

パス券といったようなもの、先ほど申し上げましたとおり、人に貸してしまうというような問題がありますので、そこら辺加味する中、よりよい方法についてはスタッフと共にまた考えていきたいと思っております。

先ほど申し上げましたとおり、大きなトラブルですとか苦情というものは、今のところないということでご理解いただければと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） 先ほどいただいた答弁でも、7.3%減というような話がありましたが、私が先ほども言いましたが、伺った年配の方は、とにかく身分証明書と聞かれるのがとても嫌なので、ちょっと利用を控えているというような話もありましたので、受付でそんな方がいっぱいいるのかも聞いたりして、何か楽な方法はないか、ぜひご検討お願いしたいと思います。

やっぱり値段が違うというか、100円安いのはありがたいんだけど、そういう、何て言うのかな、いろんな捉え方があるんですよね。何か、お風呂入るのに差別されているという言い方をしている方もいらっしゃいました。町内でここが一番安くて便利でいいんだけど、とにかく身分証明書だけは面倒くさいということをおられました。

ぜひ、私はそのパスポートというか、大げさなものでなくて、身分を証明できる簡単なものをぜひ検討していただけないかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、楓の湯のことについてはお願ひで、次へいきたいと思ひます。時間の関係で3番を先にしたいと思うんですが、保育園の給食、主食のことなんですけれども、現状は先ほど答弁いただきました。副食はつくっていただいているんですが、ご飯はそれぞれ保護者が朝つくって持たせているわけですが、とにかく今、少しはよくなりましたが、新聞をにぎわしているとおり、米不足と物価高騰の中で朝ご飯はパン食だという方も結構いらっしゃるんですよね。

そういう中で、保育園へ行く子供のためだけにご飯炊くのが、それこそ面倒くさいというか大変だということで、それで私も試算でもないですが、ちょっとうちの孫も保育園行っているような感じで話をしたんです。今、山ノ内の保育園はそんなに大人数ではなくて、50名くらいかな。かえでがちょっと多いかもしれません。かえでの人数をちょっと調べていなくてあれなんですけど、例えば保育園児50名いたとしても、お米は3キロくらいあれば、1日分足りるんじゃないかと思うんですね。

子供の食育は重要だと言われております。一般的には年齢が1歳から3歳頃の幼児期に始めるのが一番理想とされているようです。そんな中で、私が聞いているのでは、近隣で、飯山市では既に実施されておりまして、園児たちがお米の炊ける匂いで、「わあ、とってもよい匂いがする」と言って喜んでいるというか、準備しているところに顔を出したり、そんな話も聞きました。

先ほど備品の関係や調理師の負担も大変ということなんですけど、3キロくらいのお米だとお釜の、1升炊きの電気釜2つあれば間に合うのではないかという感じでね。だから、ご飯はスイッチを入れておいて、よそう器さえあればできるんじゃないかということで、ぜひこんな時代ですので、検討していただけないかと思ひまして、教育長にご答弁いただきたいと思ひます。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） お答えいたします。

時代とともに、学校教育や、また保育、幼児教育もいろいろ子供たちの様子も変われば、子供たちを支える様々な環境も変化していくものと、まず承知しております。

ですので、議員からのご質問にありますように、保育園も従来であれば副食のみの提供ということで、それは様々な、元々やはり家庭と保育そのものが、家庭と行政が双方で協力し合いながら子育てをしていくんだという、これは戦後すぐの話ではありますが、保育園がスタートしたときの理念というものも今に続くというところもあるわけがございます。

とは言いつつも、親たち、保護者の皆さんの働く環境等も刻々と変化しておりますので、今

後に向けて主食、今回のご質問いただきましたご飯を含めて、給食の在り方そのもの、また保育園の環境整備全体をしっかりと協議を進めていきたいと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） 近頃、飯山市では実施されているようなので、できれば聞いて、町でもぜひ参考にさせていただきたいと思います。とにかく、ご存じのように米が足りないという状況で、ママさんたちも、とにかくご飯炊いてもらえれば、そんなありがたいことはない、ぜひ考えてもらいたいねと口々に言っておられました。

そんな点で、年度当初でもないの、そんな簡単にはできないかもしれませんが、電気釜とかそういうものはイベント用に各保育園にあるのではないかなと言う方もいらっしゃいました。副食をつくるのは大変かと思うんですが、ご飯に関しては、先ほど言いましたように、電気釜があれば、よそう器さえあれば間に合うのではないかと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

その辺、今、だから保育園も、私の地元のほなみ保育園では50名くらいかと思うんですが、もっとお子さんが大勢いるところもあるかとは思っています。そんな中で、学校給食は半額補助で、それから保育園は副食は出しているんですが、そんな中でぜひ保育園の主食も検討していただきたいと思います。ちょっと、先ほど答弁はいただきましたが、検討ぜひしていただけないか、もう一度お返事いただきたいと思います。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ありがとうございます。

もちろん、前向きに検討させていただきたいと思います。昨今の米不足の話はもちろん前提にあるかと思えます。ご家庭の負担を軽減するというのも重要であり、また総合的に様々な子供の支援策等も展開しておりますので、そういったことのバランスも考えまして、できるだけ公平な施策として、この保育園の給食の在り方も検討を進めてまいります。

よろしく申し上げます。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） ぜひよろしくお願いいいたします。

それでは、ふるさと納税のほうに移りたいと思いますが、先ほど答弁もいただきましたが、趣旨は何かという点で、最近新聞をにぎわしている須坂市のような状況もあります。そういう中で、山ノ内の特徴といいますか、そういう点で、5月の広報やまのうちの5ページにも記事が出ておまして、大変タイミングがよかったかとは思っています。町長の公約で、寄附金の倍増、目標10億円というようなことが言われたと思いますが、まだ、だんだん増えてはいるんですが、5億円に達しておりません。

そんな中で、だんだん増えてはいるんですが、その辺まだまだ伸び悩みというか、そういう点、町長としては原因が何かということを考えてことごとございますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 私も当初、もうちょっとスピードアップして増やせるんじゃないかと思っ
てはいたんですが、年々、国からの基準も厳しくなってくる中で、しっかりと国の基準を遵守
しながら増やすということを、我々の職員は努めているというところと、あと近隣の市町村と
の大きな違いは、農作物、主に果樹が出してもらえているかというところで、我々が今JAと
話している中では、JAから出してもらっている農作物が全て返礼品として完売したとして
も、億とかには全く届かない金額のボリュームしか出してもらっていないという状況から、
農作物での寄附額増額というものがあまり見込めていないというところがあります。これから
また個選農家さんとか、町内の様々な農家の皆さんと話をしながら、山ノ内町のブランド果物
をしっかりと出していかれるような、そういう体制はマンパワーも必要となりますので、これ
から我々の体制づくりも含めてしっかりと行いながら、国の基準を遵守しながらやっていき
たいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） 山ノ内は果樹が盛んなんですが、先ほど返礼品の多い順でも農産物が入
っていなかったわけですね。そんな中で感じるの、先日の広報にも返礼品提供事業者募集中
ということで載っております。そこにリンゴの写真が載っているわけですが、リンゴの評判は
いいかと思うんです。感じとして、リンゴをつくっている方にちょっと聞くと、この辺、山
ノ内町の果樹は、何て言うのかな、比較的高く売れるといいますか。そういう中で、返礼品に
使うにはちょっと割に合わないのではないかというようなことを言ってらっしゃる方もいます。

そういう中で、志賀高原のリンゴもブドウも桃もおいしいんだと思うんですが、その辺、価
格の関係で、個選の方は自分で決められるかもしれませんが、JAのような大きな団体はいろ
んなところとの調整もあるかもしれません。その辺、今、相談と言われましたけれども、具体
的に検討していく予定を、もしありましたらお答えいただきたいと思います。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

今、議員から、我々が商品の価格を決めているような発言がございましたが、当方でこの価
格にしてほしいということは全くございません。先ほど来申し上げているとおり、町の魅力発
信、また産業の活性化ということを目的として進めておりますので、先ほどの議員のご質問等
のようなことはないと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） その辺は私も、町で価格を決めているのではないと認識しているんです
が、返礼品の金額も国で3%でしたっけ、ちょっと私も勉強不足でいけないんですが、だから
今、ちょっと今度は除外になってしまいましたが、須坂市とか中野市で農産物、果物が出てい

る、その辺で山ノ内が伸びていない、その辺を価格の問題でないとしたら、どんなことが考えられますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えいたします。

山ノ内町の果樹につきましては、既にブランド化がされておりまして、市場、または個人、そういったところに行き先がもう決まっている部分がございます。それをあえてふるさと納税に入れてくれということは、我々申し上げられないと考えております。

先ほど来申し上げているとおり、地域の産業の活性化が目的でありますので、その辺はご理解いただければと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） ということになると、なかなか農産物を返礼品としてこれから伸ばしていくというのは厳しいのかなという感じがしてしまいます。これから、それこそ話合いになるかもしれませんし、今年は雹の害もあったりして農家は大変な状況になっております。そういう中で、いろんな対応があるかと思うんですが、十分話合いを続けていただきながら、返礼品のことは検討していただけたらと思います。

観光と農業というようなことになっていきますので、だから私が考えるのは、果物、収穫した後でなくて、収穫体験というか、そういう、今、若者で農作業を体験してもらおう子供たちを募集しているようなところもちょっと聞いておりますが、そんな中で、返礼品ということで具体的な品物、果物とかそうならなくても、農作業の体験とか、そういうことをセットにすることは可能でしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

従来より、町としましては返礼品に農産物のような物、逆にリフト券のようなこと、そういったものを返礼品とさせていただいております。もし、農家の方、そういった方が農業体験のようなことを商品にしたいとおっしゃられる方がいるのであれば、我々はいつでも相談に乗りたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） 具体的にこの方とは言えないんですけども、昨年、信州の教育ですか、そこにファーマーズスタイルとかいう名前で若者が農業体験を重視してやっているといいような発表を聞いたことがあったんです。そういう感じで、だから山ノ内町でも若者で農業に頑張っている方がいますし、そういう点で、ぜひ横のつながりといいますか、関係団体、今グリーンツーリズムもちょっとなくなってしまって大変かとは思いますが、いろいろな関係の方に声をかけていただいて、そういう農業を身近に感じてもらう、体験してもらうということも、都

会の人に聞くと、とても魅力的だという声もありますので、そういうこともぜひ検討していただければと私は思っております。

そういうことで、掘り起こしといいますか、若者でそういう団体をつくっていらっしゃる方もいるので、どういうルートでやればいいのか、ちょっと私も具体的にはまだ分かりませんが、その辺を未来創造課で、ぜひ幅広く募集というか、いろんな形で募集はされているかとは思いますが、掘り起こしていただければと思います。

とにかく、ふるさと納税の理念にも書いてあるんですが、何て言うのかな、納税者が寄附先を選択する制度である中で、いろいろな品物もちろんですが、体験するとか、山ノ内町は宿泊券とかリフト券もあることなので、そういうのに併せて、そういう農業体験もできるような形をぜひ考えていってほしいと思います。

ふるさと納税は、お世話になった地域に恩返ししたいというような形で応募してこられるわけですね。そういう中で、山ノ内町は農業も盛んで、自然もあって、そういう点で、ぜひ山ノ内の魅力を発信するためにも、そういう点もふるさと納税の1項目に加えていただければと、ちょっと私は考える次第です。

うまく言えませんが、そんな中でそういうことも考えられるというか、ふるさと納税の理念についてちょっと町長の考えをもう1回伺いたいと思います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） すみません。今の質問の要点を、申し訳ありませんが一度整理いただいてもよろしいですか。何を聞かれたのが、趣旨でしたら先ほどお話していると思いますので。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） うまく言えなくて。ふるさと納税の返礼品に、山ノ内町の果物とかがあるんですが、先ほど未来創造課長にも答弁はいただいたんですけども、農業体験とか子供たちがそういうことに、ふるさと納税の返礼品といいますか、そういうことに加えられるかどうか。そういうことを考えていくことがどうかということで、町長のお考えを伺います。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 先ほど課長の答弁でもございましたが、そのような体験型のものも現在調整中でして、我々の職員では様々な視点で山ノ内町の魅力を発信すべく、そしてまた、町の果物のよさを発信すべく、日々アンテナを張ってやっております。議員から、もし周りの方々にそうやって農家さんとかで、体験を受け入れてくださるような農家さんがいらっしゃるようでしたら、ぜひ町の担当課とつないでいただいて、ちゃんと実になるような形にしていいただければと思います。我々の町、残念ながら観光農園が少ないもので、なかなかそういう受入態勢というものがある農家さんが少ないということが課題だと思っておりますので、それは今も担当課で一生懸命やっておりますので、また議員のほうでお知り合いの農家さんがいらっしゃるようでしたら、こういう一般質問ではなく、その農家さんとうちの担当課をつないでいただければと大変ありがたいと思います。

よろしく願いいたします。

議長（白鳥金次君） 湯本議員。

6番（湯本るり子君） 確かに、山ノ内町には観光農園はありません。あまりないと思います。

そんな中で、観光局として道の駅に買物に来られた方がすぐそばの農園に桃のもぎ取り体験とか、そういうので行かれる方もおりますので、観光局としても、そういう収穫体験をメニューに入れるとか、そんなこともぜひ考えていただけたらと思います。

すみません。これで私の質問を終わります。

議長（白鳥金次君） 6番 湯本るり子議員の質問を終わります。

議長（白鳥金次君） 以上をもって、本日の会議を閉議し、散会します。

ご苦労さまでした。

（散 会）

（午後 1時56分）